

日本電装電友会山岳部

91年度 夏山合宿記録

A party



CL. 大矢 藤田 板倉 神谷
津田 齊藤

〒
〒

夏山合宿を振り返って

NO.
作成 91年 8月 15日
部 課

配布先

今回の夏山合宿は、中堅レベルupと新人の育成を目的として計画を立案したが、残念ながら新人の参加は1人にとどまり、新人担当としては、目的達成は半ば甘りという印象である。形式は昨年と同様沢(A)と縦走(B)の2パーティーとしたが、合流後易い沢を登るということが昨年と異なっている。また、A・Bとも途中下山者があり、合流及び途中下山の方法については詳細補足を作成し万全を期した。

今年の沢は、また一味違、た沢登りができた。打込谷は、水量が少く、ゴルジエの静や、釜は深く青々として美しい。前半は河原歩き主体で泳いで徒渉するところもあり、なかなか楽しく、後半は滝の連続でほとんどが直登でき、最後もお花畑から北面尾根へすっきり抜けることのできた。赤木沢については、私自身は2回目であるが、前回は初めての夏山合宿で初めての沢登りであったこともあり、今回の方が楽しめた。ナメ滝が少く、そのほとんどが直登でき、易い沢にもかかわらず沢登りの良さが満喫できたと思う。

全般的には、天気に恵まれますますの成功であるが、3日目に藤田さんが捻挫で途中下山せざるを得ないというアクシデントが起きたのは残念である。幸い大事に到らず無事下山できたので良かったが、予定通り順調に打込谷を登った後の移動日ということもあり、パーティーの気の緩みか良かったかどうかリーダーとして反省している。赤木沢については、8/13のうち、そのま沢を話めて黒部五郎小屋まで行ったのは、天候とメンバー状況をふまえた良い判断かできたと思う。

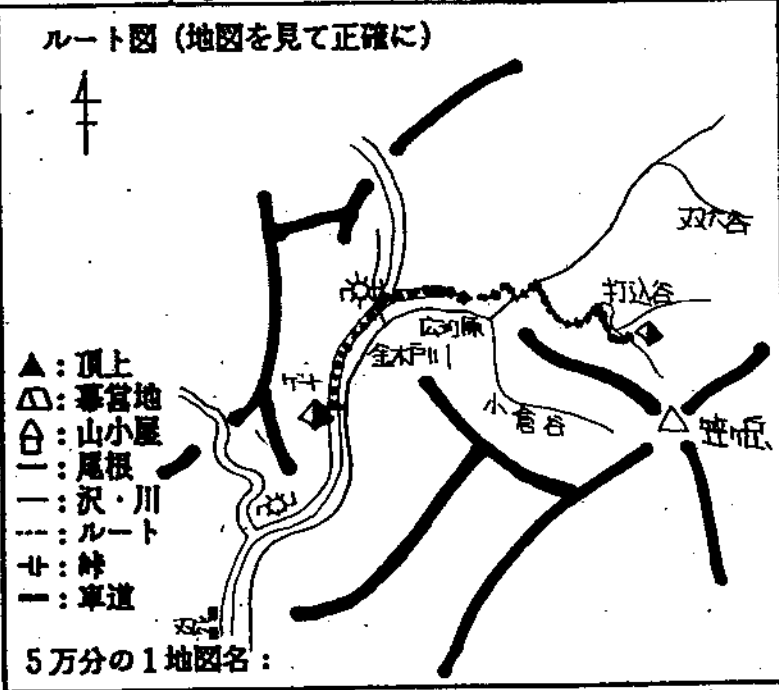
最後に、今回の合宿の留守本部・留守部員を引受けていた方々、及び差入山をして下さった方々に、この場を借りてお礼を申し上げます。

経路
作成部署・報告部署
保管
写原紙
年 年

承認
検討
作成
大天

月例会 個人	山行集会報告書	報告者 報告日	神谷 8/28	参加 メンバー	CL: 大矢 藤田 板倉 神谷
山域 山名	北アルプス	山行日	91年8月9日(金)~ 10日(土)		
山行目的	夏山合宿	コースタイム (天候: 天気図記号)			

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



8/9 ○	8:50 金木戸川 川床へ降り
18:58 刈谷穂	9:00 手洗台 とほく
19:40 名古屋花 特急ひたし	10:10 打込谷出合
21:58 高山着	11:07 23
23:40 ゲート着	13:15 25
24:00 消燈	15:55 幕営地
8/10 ◎	18:55 消燈
4:55 起床	
5:40 出発	
6:20 我田所	
6:45 57	
8:03 15	

<報告者所見>

8/9 高山駅より予約のタクシーに乗り、双六の集落をすぎて未舗装となつた林道をゲートのある所まで車で入った。ゲートの付近には釣人のものらしきワゴン車が2、3台駐車されていた。この夜はゲートの前でツイルトをかぶり眠ることにした。このあと起床までゲートを通過しようとする車に2度も起こされることになった。

8/10 3台目の車に来て起床となった。やはり初日は睡眠不足にありがちで、この日は空もスッキリとせず、気分はあまり良くない。しかし、林道を歩くペースは早く、金木戸川の川床へ降りるまでは順調に進めた。林道を歩きながら下をのぞくと

<リーダー所見> 水量豊富な流れのゴルジュ帯が見える。

金木戸川へ降りたあと打込谷出合までは、巨石のゴロ帯が続いた。木の流れが強く、そうそう渡るわけにはいかなないので、ルートをていねいに選びながら進んだ。

打込谷に入ってからゴロ帯は続いたが

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

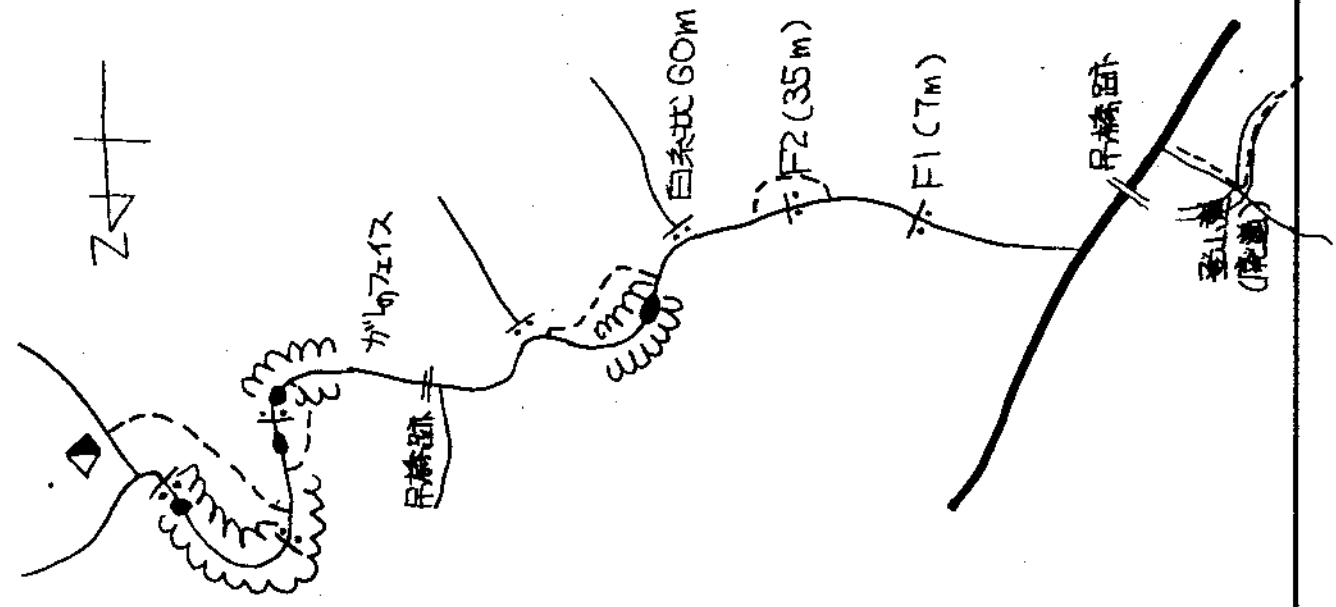
〒 _____
〒 _____

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

配布先	

金木戸川の本流ほどのスケールはなく、歩きやすくなった。
 F2(35m)を板倉さんは直登したが他の3人は左岸を高巻いた。
 そのあと白糸状60mの滝を右手に見るとすぐにゴルジュ帯に出会う。
 ゴルジュ帯は、両岸が切り立った淵で始まり、その奥は巨岩が
 つみ重なっているのど、とても通過できそうにない。残念ながら
 左岸を高巻く。左岸のL字状の所を直登するとしっかりした踏み
 跡が横切り、奥にゴルジュ帯を高巻くことが出来た。
 仙ノ淵の滝は右岸のすし下から尾根状の所に取り付き、大きくトラバ
 ンをして、滝の上にあるトコごと巻いてしまう。登りながら見る仙ノ淵と
 その上のトコはどちらもすごい迫力で、見事である。沢に降りる
 とすぐに次の滝が現れた。木にぬれる覚悟があれば直登
 可能だったが、時間も遅いので、高巻くことに決めた。
 適当な巻き道がみつからず、ゆきよく左岸を大きく高巻く
 ことにした。ヤブが濃く、歩きづらいが他にルートはなさそうだった。
 高巻きが終了した所で、天場を深し、対岸のヤブの中を天場にした。
 天場を少し下った所に核心部最後の大滝があった。この大滝を
 巻いて巻いてしまっていた

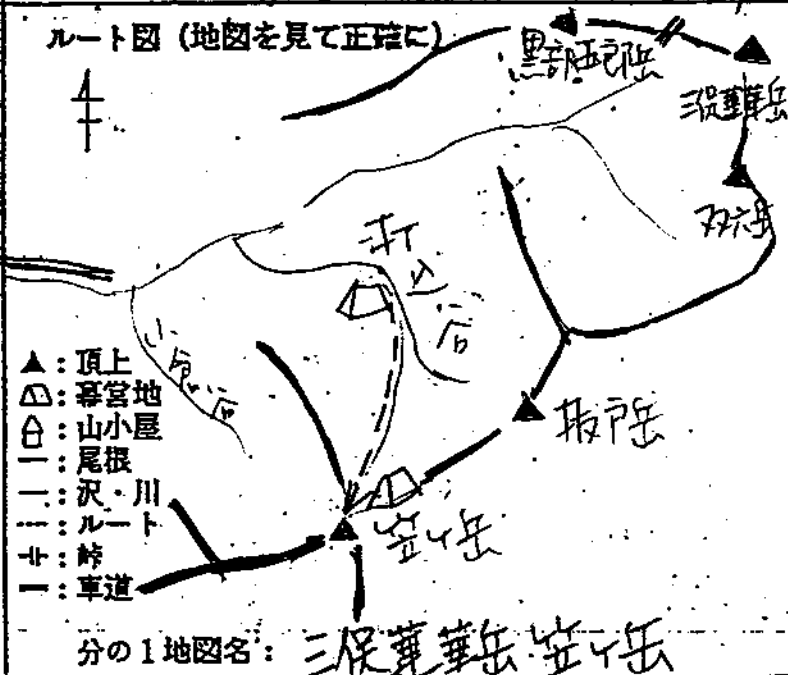
経路
 作成部署
 報告部署
 保管
 写原紙
 年 年



承認	
検討	
作成	

月報例会	山行集会報告書	報告者 報告日	梅倉 8/28	参加 メンバー	CL: 大平, 藤田(勝)
山名	北アルプス 打込谷-空岳	山行日	91年8月17日(日)~ 18日(月)	メンバー	神谷, 梅倉
山行目的	夏山合宿 (沢登り)		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
集会: 8
山行: 1
原紙: 集
会担当者



時刻	内容
4:10	起床
5:30	仙淵上
7:05	1848 三保
9:00	
10:40	2620 三保
11:08	北西尾根 稜線
11:45	空岳山頂
12:10	空岳
12:30	キャンプ場

● (1500~)

<報告者所見> 山頂での朝はブツと聞いている最中。おてこぱちと痛いのにかと思たら全員赤い無数の虫刺され後かあり全員爆笑。

今日の行程は昨日に続き河原キが約1430'ある。途中青く澄んだ空の谷を持つ滝にしばしば見とれる。ガイド等に書いてあった大雪渓は全く見当らず。全員指子指しあうた。しかしニカラガニの谷の一番良い所だと私自身思う所が続く。おてこぱち10m程の穴で始まり通称「赤い穴床」と呼ばれる所は、赤茶の岩床とその紋様はすばらしく美しいである。35m・60m (これは2段) は山を山左岸右岸と快道にザイルおして登り穴滝登りを楽む。さう60m上の三保を右へ入ると今度は穴の小滝が200mも続き、昨日の河原キのうさぎを暗らすように皆思い思いに登る。

最後の詰めはお花畑を直ぐ北西尾根へ快道突き上げる。期待(?)していたツバシラ漕ぎも全くなくガマガシの小笠を着き全員握手で打込谷成功を祝う。空へ空身で軽くバトンしキャンプ地へと下り下る。

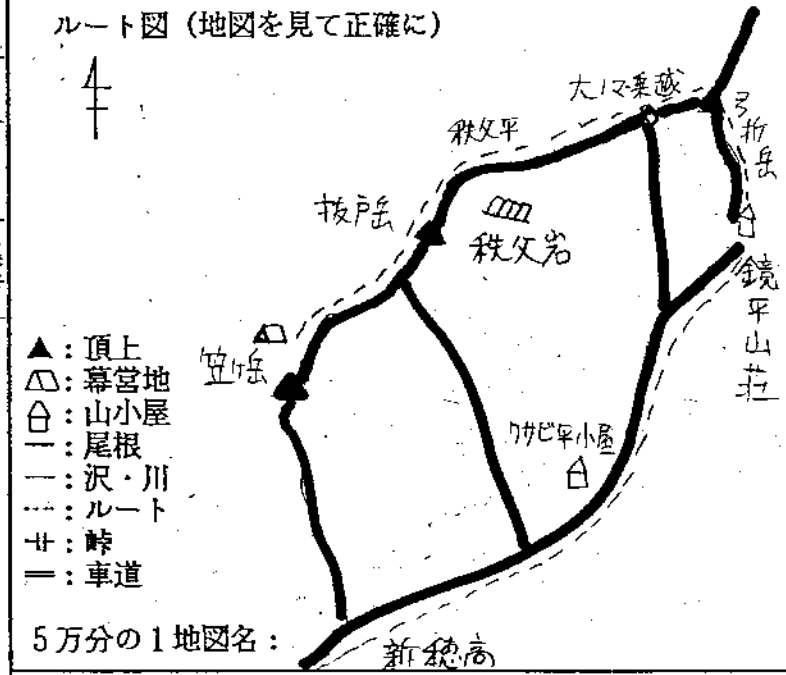
フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に
深山の谷川にすむイモリに似た両唇類
天然記念物。
小形のものはサニョウ科に属し、薬用

少し早いけど予定通りの行動に今日はここで泊ると決まる。三省堂 国語辞典

月度例会 個人	山行	集会報告書	報告者 報告日	藤田 8/12	参加 メンバー	CL: 大矢 板倉 神谷 藤田
山域 山名	北アルス (笠ヶ岳~弓折岳~新穂高)	山行日	91年8月12日(月)~ 年 月 日()			

山行目的: 91年夏山合宿 (3日目) コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



8/12 ① → ①	13:00~13:30
4:00 起床	わさび平小屋
5:25 出発	14:50 新穂高
6:25 秩父平	16:00 バス出発
8:00 大ノ乗越 下りで藤田 ネンザ	17:40 高山着 17:45 高山発
8:20 大ノ乗越	20:15 金山着
8:50 弓折岳	21:00 安眠
9:50 鏡平山荘	

<報告者所見> 「星がでてるよ」の板倉の声で目がさめる。昨夜の雨は防水不能のツェルトを通してシラフカバまで濡らしたので掃ごちが悪く直ぐにとび起きる。朝食をすましてテント場を出発する頃にはガスが湧いて視界は300m程度になる。しかしガスの切れ間に所々青空が見え本日の稜線歩きに若干の希望を抱かせる。秩父平はお花畑が広がり、その向こうにローソクを立てたような奇岩「秩父岩」が見え写真班の神谷はパーティの前後に飛び回りシャッターを押していた。こまでは実にのんびりとした山行であった。しかし好事魔多しと言おうか次に起こる災難は誰も予想できなかった。お花畑が終わり大ノ乗越の下りは何の変りつもない普通の下りであった。しかし、この普通の下りが曲者であった。私(藤田)はちょうどはしごを前向きで下る様なかっこうで右足を置こうとした時、足場を踏み

<リ=タ=所見> 外して足首を内側に曲げたまま足のくるぶし側で着地してしまったのである。「しまった」と思った時はザックを背負った全体重が右足くるぶし下の三角靭帯を非情なまでに伸び切っていたのである。右足の状態はくるぶしが大きく膨らんで重いネンザと判断できた。足首はほとんど曲げれないのでシッポとテピングで固定して、とりあえず空荷にして大ノ乗越まで下る。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

くるぶし
三角靭帯
伸び切った部位

大に乗越で今後について相談する。その結果

① ネンガした藤田は弓折岳 - 鏡平山荘 - ワサビ平小屋 - 新穂高のコースで下山する。ただし足の状態が悪い時は鏡平小屋かワサビ平小屋で泊って翌日下山する。尾山、手山鳥組の救援を待つ。

足の状態が良ければそのまま下山帰宅して医者に行く。

② 神谷は藤田をサポートとして一緒に下山する。

③ 大矢・極倉は三俣山荘まで行きBパーティと合流し、当初の計画で進める。

④ 下山組は通過した小屋で三俣山荘に通過確認の電話を入れる。

以上の様にとり決め、弓折岳で別れる。

弓折岳からの下りはびっこをひきながら一歩ずつゆっくり下る。

右足をかばっての歩きは何度かバランスをくずし転びそうになる。

鏡平とワサビ平では冷たい沢の水で足のはれを冷やしたので痛みも少しやわらいた。

新穂高は観光客で混雑していた。

神谷が留守本部へ下山報告した時に、双大小屋のテント場で大学生のパーティが火事を起こして火傷を負ったというニュースを聞いた。

そういえば途中でヘリコプターが飛んでいたがその為のものだったのかなと考えたりした。自分のネンガも骨折で歩けないとか悪場で自力脱出できない場合はそうしたもののお世話になるのかなと考えると、

平地での怪我と違って山での怪我は迷惑のかけ方が大きいなと改めて痛感した。

他人への

事実、大矢・極倉には私が扱ったことによる計画外の誤算を負わせてしまったので本当に申し訳なかったと思っている。

今回の足首ネンガという怪我だけを考えれば事前に防ぎ方はあったと思う。それは初歩的なことでおが登山靴を履いていたネンガはしなかっただろうということだ。いや足首を保護できる靴であれば良かったと思う。ここ数年夏山は運動靴で登るという習慣で今回も運動靴で登って、足首の保護がないのでネンガしやすいという条件を作っていたのは反省すべき点であった。

今回のトラブルに限らず、準備段階で防げるトラブルはまた他にもあると思う。体力を使って登ることも大事だが頭を働かせて事前にトラブルの種類を

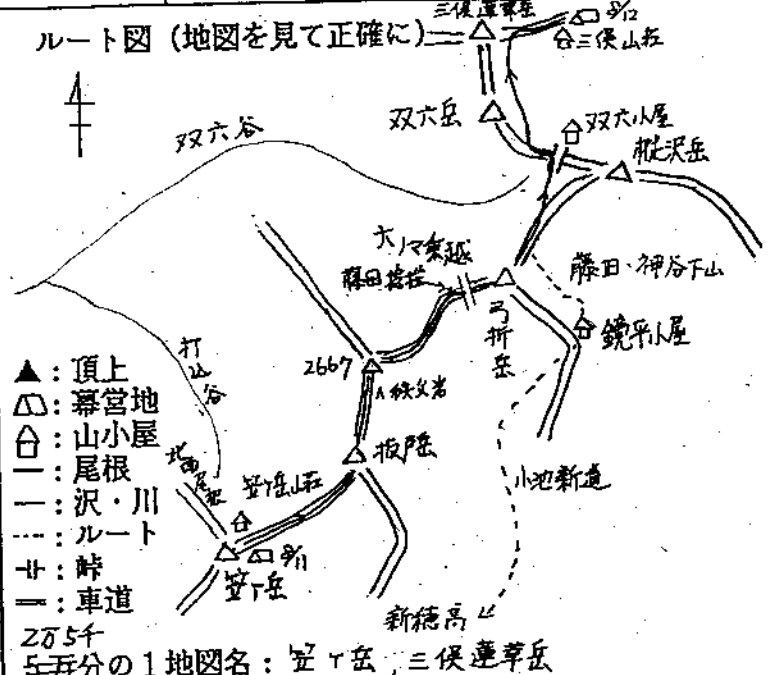
つむいという事もそれ以上に大事な事なんだと考えさせられた。

夏山合宿 Aパーティー

月度例会 備大 山行	<h2 style="margin: 0;">集会報告書</h2>	報告者 報告日	大天 8/28	参加 メンバー	CL: 大天 板倉 藤田(勝) 神谷
山域名 北アルプス南部	山行日 91年8月12日()~ 年 月 日()				

山行目的: 沢登り技術の向上 コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先
 集会: 8
 山行: 1
 リーダー
 原紙: 集会担当者

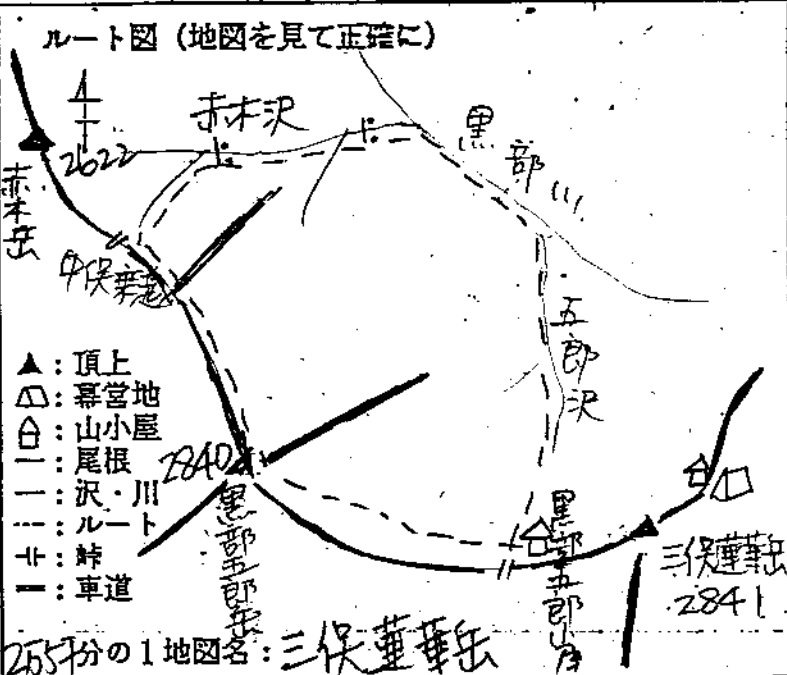


4:00 起床 ○
 5:25 出発 ○
 6:25) 2667 午前鞍部
 6:40)
 7:25) 藤田 右足首
 7:40) と捻挫
 7:50) 大ノ木越
 8:05)
 8:40) 小池新道分岐 藤田・神谷 下山
 9:10)
 9:55) 双六小屋 Bパーティーと交信。受信状態
 10:10) 良くない
 11:05) 三俣ビーク分岐
 11:15) 鞍部
 11:45 三俣山荘 Bと合流

<報告者所見> 昨日、予定通り打込谷と板ヶ笠まで行くことができたので、今日の双六小屋をパスして三俣山荘でBと合流することにする。天気はあまり良くないが、快調ペースで歩き、2667午前鞍部で一本取る。ここから見た霧の中の秩父岩は幻想的だ。このまま行けば11時前に着いてしまふ。今日は楽勝だと思ふ。大天に藤田さんか大ノ木越へ下りで右足首と捻挫してしまふ。とりあらず湿布を貼ったが、ハレからいづく後半の行動は残念から無理なので、合流の上、翌日亀山玩千鳥君と下山予定だ。た神谷君に付いておいて、小池新道から藤田さんへ下山することにした。小池新道分岐で2人と別れ、大天板倉で三俣山荘に向かう。4人の2人に減りザックの重量が増えたため、足取りは重い。双六小屋でBパーティーとトランシーバー交信する。14:50⁰⁰で呼出しに成功し、144.90MHzに呼び出し、山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に。三俣山荘は今回で4回目であるが、私が行くときは必ず晴れ、北鎌尾根の崩落を見せられるので嬉しい。三俣山荘は人の双。楽しみ。していたビールは売切れた。夕方には晴れ、北鎌尾根の残照で今日一日が終わった。

月 山行集会報告書		報告者	板倉	参加	CL. 大塚 津田 有藤 板倉
山 域名		報告日	8/28		
山 名	北アルプス 黒部五郎赤木	山行日	91年 8月 3日(一)~ 年 月 日(一)		
山行目的	登山合宿 (沢登り)		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
集会: 8
山行: 1
原紙: 集会担当者



0	起床	中保乗越
3:00	三保山荘登	300m
5:00	三保蓮華岳	5m
5:40	黒部五郎	30m
6:55	黒部川(出合)	20m
8:50	黒部川(出合)	20m
10:25	赤木沢出合	
12:40	35m滝下	
1:55	中保乗越	
3:20	黒部五郎岳	
5:10	黒部五郎屋	

<報告者所見> 朝、今合宿一番のすばらしい空である。夜空けとともに三保蓮華岳へ向けて8人で出発する。途中、檜・穂の黒く浮かび上がった様な複雑に目をうばわれながら、頂上へ着く。頂上では、景色も十分に堪能し、Bピニキで別山乗越へ下る。小屋の主人でテポ品を置かして下り、5郎沢へ下降。5郎沢は小さな岩を慎重に下り行く。途中、初めて見る岩魚に感激したのが、黒部川へ出る。黒部川釣りが多く、20人位とみちがう。何回も徒渉を繰り返す。二段の漕を持つ赤木沢の出合へ着く。今日は二まじの予定だが時間はまだ10時予定を愛更し、上流へ詰めることにする。

赤木沢は、美しいテマ床で松たちを向かえてくみた。緊張感はないが楽しいテマ滝登りに皆感激の様子である。途中大きな漕を持つ滝も登り入り次々に越して行く。赤木沢最大の35mの滝は、10m程前川の左岸の水流が激しい高巻く。続く二保は結局左へ取り、300m位続くテマ流の滝(松が枯れた)を越え、最後はお花畑の稜線へ出た。黒部五郎のテマ登りに向けたから頂上でさしだ、赤木沢を振り返る。

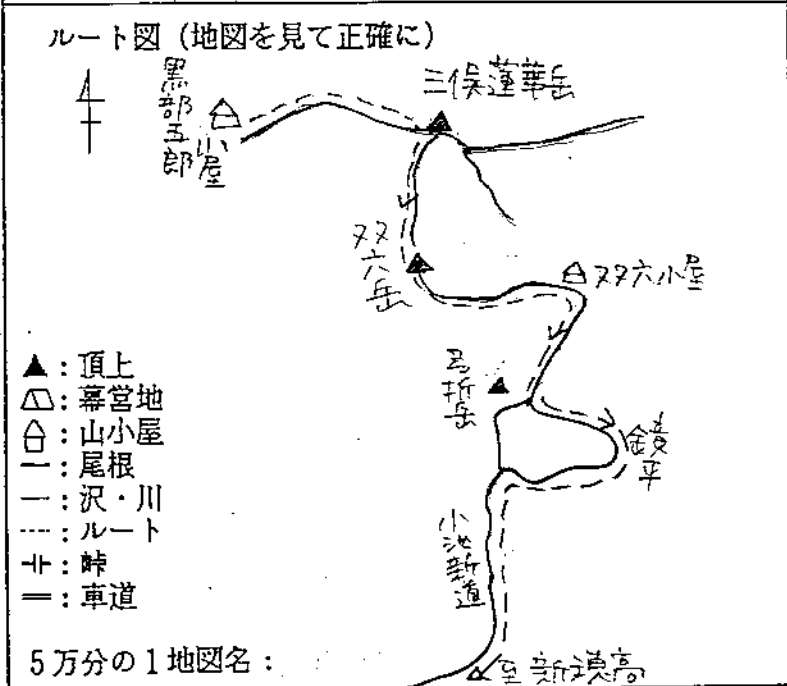
フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

黒部五郎のカーブを岩と花の風景に目をうばわれながら、黒部五郎小屋へ着く。

月度例会 個人	山行	集会報告書		報告者 報告日	菅藤 8/28	参加	CL: 大矢 板倉・津田 菅藤
山名	ヒアリス	山行日	91年8月(4日休)~		メンバー		

山行目的	夏山合宿	コースタイム (天候: 天気図記号)
------	------	--------------------

配布先
集会: 8
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者



8/4(水) (○)	9:40
3:30 出発	↓
5:10 黒部五郎小屋発	10:35 鏡平山荘
↓	11:00
5:50	↓
6:10	12:00
↓:40 三保蓮華岳	=15
7:10	↓
=25	13:10 ワサビ沢
↓	20
8:10 双六岳	↓
=25	14:10 新穂高
↓	
9:25	

<報告者所見> 今日は新穂高へ下山ということになり、黒部五郎小屋を出発。空は曇っているが何とかもちそう。まずは三保蓮華岳の上りだ。途中、大学生の歌うパーティのおかげで道が渋滞したが、先に行かせてもらう。稜線に出るとガスで周りの景色は見えないが、朝のすがすがしい空気が気持ちいい。最初の休憩の時、初めてブロックン現象を見ることになった。三保蓮華岳の頂上を通過し双六岳へ向かった。その頃空も晴れ間を見せ、水晶や鷲羽も顔を見せた。この雄大な景色には何度も感動させられた。双六岳の頂上からは槍ヶ岳が立派に見え、大矢氏がすがすがしくスケッチしていた。ここから小屋まで一発に下り、鏡平へ向う。今回高山植物が結構咲いていたが、初めてトリカブトを見た。妙に毒々しい花である。鏡平の山荘から小池新道を通り下るが、この道は下

<リーダー所見> リーダーも疲れるが、上りだともちそう。日射しが強くなり、頭がもろろとして、手もむくんでしまった。鏡平から2時間程でワサビ沢に着いた。ここから新穂高までは普通の道なので、大矢・板倉両氏は走りだした。津田氏と私は2人より30分遅れで新穂高に到着。そこで温泉に入り、無事下山を祝ってビールを乾杯した。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

夏山合宿 天気図

